文芸春秋社 出版から半世紀
清張代表作に「お断り」

伊藤律遺産 『事実上の訂正』

立場不利 迫る期限

TTP交渉 参加決定

11ヶ国合意
『白鳥事件 偽りの冤罪』
出版記念講演会
主催：現代史研・社会運動史研・社会運動資料センター・ちきゅう座
於：2013年4月20日 明治大学リバティタワー

◎プログラム

▼開会
出版から記念講演会に至る経過報告
由井 格（社会運動史研）
13時〜

▼講演
白鳥事件の背景と「国民運動」
宮崎 学（作家）
13時15分〜45分

松本清張『日本の黒い霧』の暗部を紹す
渡部隆（著者）
13時45分〜14時45分

——休憩——
14時45分〜15時

絹と石油
篠田正浩（映画監督）
15時〜16時

▼文藝春秋との交渉と報告
北京で父が語ったこと—伊藤律と野坂参三
伊藤 淳（伊藤律遺族）
16時〜

▼質疑応答
作品について

日本の黒い歴史は、月刊「史実解釈」の「九六〇年・九月二十五日号」に掲載された「運命的な事件、の真実」で改められたものである。当時の事件は、GHOによる占領、労働者運動の発展、米国対抗による製造、そして軍事政策の影響など、複雑で深刻な状況が存在した。この運動は、米国の影響を受けて、日本国内の反米感情を高め、日本国内の政治的・社会的状況を深刻化させた。

その後、伊藤氏の発表、生産は不明である。その発表、製造の状況などを、まるで新しい歴史を描いたものである。

その後、九六〇年に伊藤氏は、九六七年の時点で日本国内の政治的・社会的状況を深刻化させた。この発表、製造の状況を、まるで新しい歴史を描いたものである。

なお、下述の「史実解釈」の解釈は、あくまでも仮説である。また、「伊藤氏」の発表は、九〇二年の九月二十五日号に掲載された「運命的な事件、の真実」で改められたものである。

「九六〇年、九月二十五日号」に掲載された「運命的な事件、の真実」は、伊藤氏の発表、製造の状況を、まるで新しい歴史を描いたものである。
松本清張の名作ノンフィクションが読めなくなる！？

近来、伊藤律スパイ一揆事件は、松本清張の遺族が新たな資料の後押しされて再考される。文春春秋に抗議する声が上がっている。

松本清張は、長編小説の作者としても有名。彼の作品は、社会的問題や政治的なテーマを扱い、多くの読者が感動するものであった。特に「誰もが知る有名人」は、暗黙のうちに政治的な内容が含まれていたとされる。

しかし、伊藤律スパイ事件が法院で解決した後、遺族は新たな資料の公開を要求した。彼等は、この事件が、松本清張の作品と直接関係していると主張している。

一方、出版社は、資料の公開が、出版権を侵害する可能性があると主張している。

遺族と出版社の間で、資料の公開をめぐる争いが続いている。この争いは、松本清張の作品の価値を再考する機会ともなっている。

※ソ連のスパイ組織が日本国内で活動していたとされて、1941年から42年にかけてその構成員が逮捕された。リーダーであるリヒャルト・ゾルゲと元朝日新聞記者の見崎芳英が死刑にされた。
作家・松本清張のノンフィクションの代表作「日本の黒い霧」の中で、スパイ事件のいわゆる「ゾルゲ事件」の端緒となる情報を警察に流したと記述された男性の遺族が会見を開き、「新たな証拠から作品で記述された説は覆っている」として、出版社に内容の訂正を求めていることを明らかにしました。

都内で会見を開いたのは、終戦直後の日本共産党の元最高幹部、伊藤律氏の次男の淳氏です。松本清張はノンフィクション作品「日本の黒い霧」の中で、昭和16年に発表されたスパイ事件「ゾルゲ事件」で、伊藤律氏が事件に関係した人物の情報を特高警察に流したことが摘発の端緒となったと記述しています。

これについて、淳氏らは、「海外で新たな文書が見つかっているほか、特高警察の関係者が否定する証言もしており、作品で記述された説は覆っている」と述べ、出版元の文藝春秋社に内容の訂正を求めるべきことを明らかにしました。

文藝春秋社は、「『日本の黒い霧』は、戦後史の謎を解明するうえで、極めて貴重な視点を提示した名著です。ただ、清張が執筆した当時は資料の制約もあり、その後、新しい事実も明らかになったことから、こうした経緯を具体的に説明する文章を付けて刊行を続けていくつもりです」と話しています。

**ゾルゲ事件とは**

スパイ事件の「ゾルゲ事件」では、ドイツの新聞社の日本特派員、リヒャルト・ゾルゲや近衛文麿元総理大臣のブレーンで、元新聞記者の尾崎秀実らが日本政府の政治や軍事の機密情報を旧ソ連に漏らしたとして、昭和16年スパイ容疑で逮捕され、ゾルゲと尾崎は死刑となりました。

ゾルゲ事件を巡っては、アメリカの陸軍省が昭和24年に日本共産党の最高幹部の1人だった伊藤律氏が「事件につながる関係者を証言した」と発表したほか、昭和28年に日本共産党が伊藤氏を当局のスパイだとして除名したことなどから、伊藤氏の証言が事件の端緒となったとする説が長年定着し
できました。
また、作家の松本清張が、昭和36年に出版したノンフィクションの代表作「日本の黒い霧」の中で「伊藤律が当局に情報提供したことは事実であると見ていい」「ソルゲ・尾崎検挙のきっかけが伊藤律にあったことは疑いの余地がない」などと記述しています。
しかし、ソルゲ事件の研究者によると、1990年代以降、ロシアやアメリカで、伊藤氏の証言よりも前に捜査が始まっていたことを示す公文書が発見されているほか、特高警察の関係者が否定する証言をしているということで、これまでの通説を否定する見方が有力となっています。

[関連ニュース]  「日本の黒い霧」注釈付け改訂版出版へ  （4月20日 21時33分）

社会ニュース一覧
科学・医療ニュース一覧
政治ニュース一覧
経済ニュース一覧
国際ニュース一覧
スポーツニュース一覧
文化・エンタメニュース一覧

動画一覧

・ご意見・お問い合わせ
・NHKにおける個人情報保護について
・放送番組と著作権
・NHKオンライン利用上の注意

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.
許可なく転載することを禁じます。
このページは受信料で制作しています。
このページの先頭へ
作家・松本清張の作品「日本の黒い霧」の中で、スパイ事件のいわゆる「ゾルゲ事件」の端緒となる情報を警察に流したと描かれている男性について、出版社が、記述内容を否定する証言も明らかになっているなどとする注釈を付けた作品の改訂版を出版することになりました。

松本清張のノンフィクションの代表作「日本の黒い霧」では、日本共産党の元最高幹部、伊藤律氏が、昭和16年に起きたスパイ事件「ゾルゲ事件」の摘発の端緒となる情報を特高警察に流したと記述されていますが、伊藤氏の遺族側が、事実関係を否定する証言が出ていることなどを理由に、出版元の文藝春秋に内容の訂正を求めています。

伊藤氏の次男の淳氏によりますと、文藝春秋側から、作品で記述された説を疑問視、否定する関係者の証言も明らかになっていることや、伊藤氏自身も関与を否定していたという注釈を付けた改訂版を出版したいとする打診を受けたということです。

淳氏は、20日に都内で行った講演で「作品に注釈を加えることを評価して受け入れたい。父の名誉回復のために活動してくれた人たちに感謝したい」と述べました。
「日本の黒い霧」は、昭和36年の出版から半世紀以上を経て、改訂版が出版されることになります。

[関連ニュース] ・松本清張「日本の黒い霧」の訂正求める（4月16日11時22分）

自動検索

社会ニュース一覧
科学・医療ニュース一覧
政治ニュース一覧
経済ニュース一覧
国際ニュース一覧
スポーツニュース一覧
文化・エンタメニュース一覧
伊藤律スパイ説に注釈＝「日本の黒い霧」否定証言－文芸春秋

松本清張が「日本の黒い霧」（1961年出版）で、元日本共産党幹部の伊藤律をスパイだったとした記述について、出版元の文芸春秋が「否定する証言がある」との注釈を入れる方向で検討していることが15日、同社の取材で分かった。伊藤の遺族らは「スパイ説は近年の研究者などでは否定されており、名誉回復の大きな一歩だ」と評価している。

この作品では、太平洋戦争戦前前の1941年に旧連合国スパイのリヒャルト・ソルゲや、元新聞記者の山崎秀実らが逮捕された「ソルゲ事件」について、伊藤がグループの警備を警察当局に提出した疑いがあるなどと指摘されていた。（2013/04/15・21:56)

社会

2月20日。18時30分から、羽田空港第1ターミナル。日本空輸の機長が羽田と成田の間で運航する全日空の旅客機を機長室からパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。機長は三菱エアバスを走行中にパーソナルコンピュータを操作し、セキュリティミスを発見。